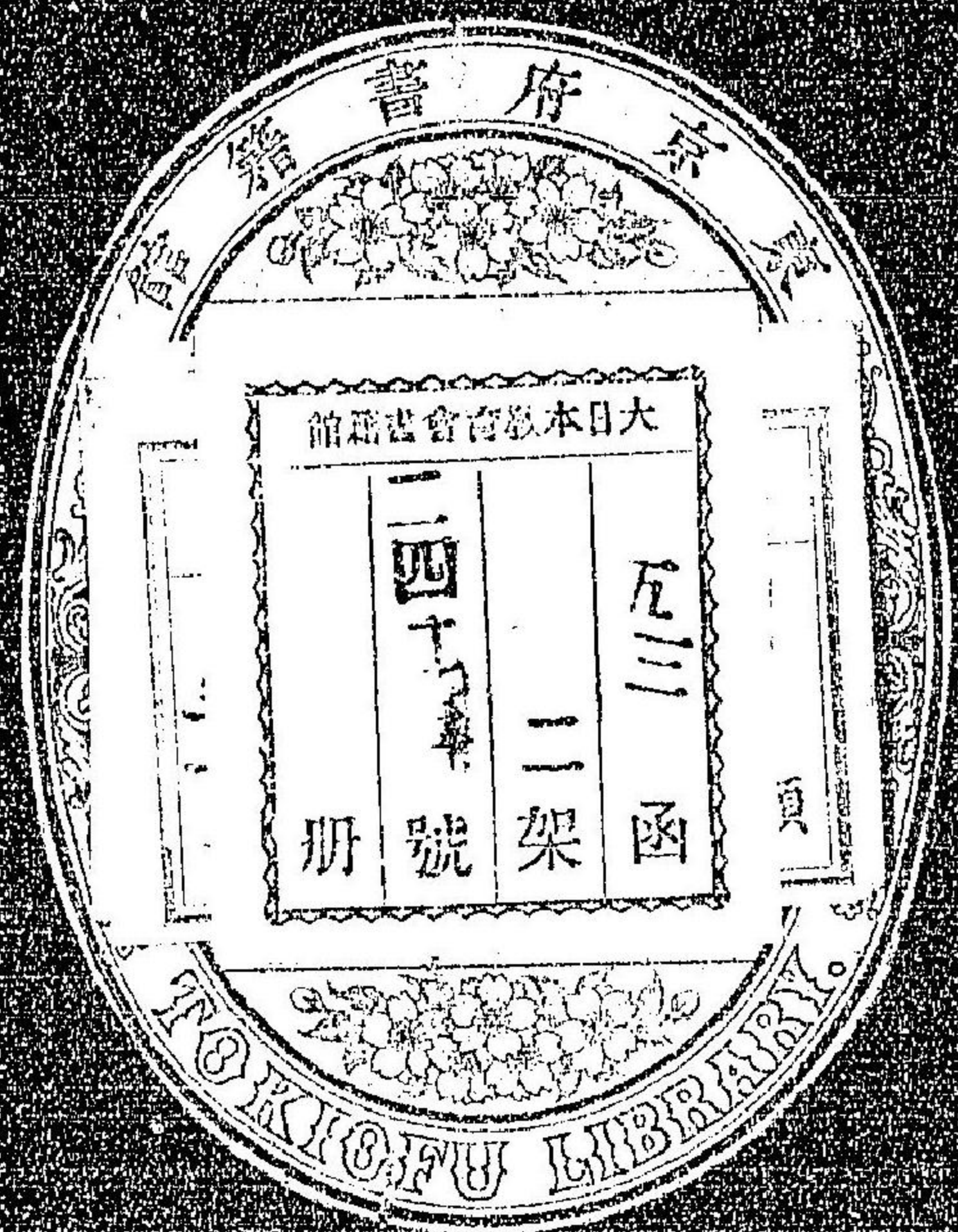


筆算題叢

山崎玉堂
編
十

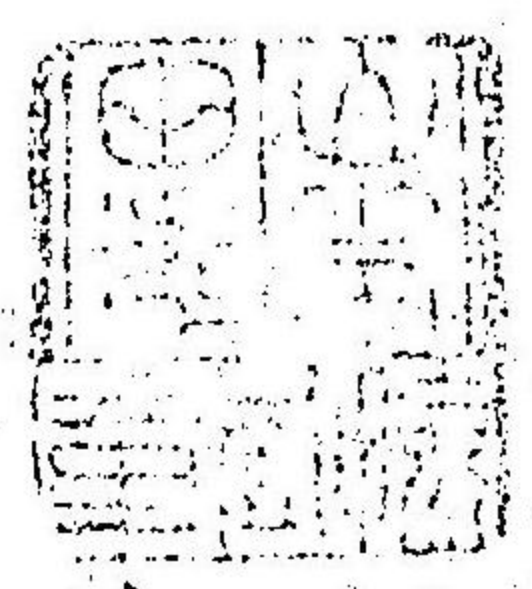


特37

202

共十本

山本正至
田澤昌永 編輯



筆算題叢

明治九年十月二十六日版權免許

同 九年十月十三日出版

文林堂 發兌

筆算題叢卷中

按分連折比例即相連比例ふ測學級數の別名

を多と測學級數を我朝差分の一種ある故に按分

連折比例を終了差分の異名とされり然るも英亞兩

國の數學書中會社算法(パートネリツフ)或は(フェルローツフ)

ある者差分と類似するを以て洋算創めり行はるる

の際之を差分と譯せしより轉遷し亦之を按分連

折比例と稱するに至るは慣習の久しき之を改むる

は便あり改めざるも亦必しも妨害なきを以て敢

筆算題叢卷中

山本正至
田澤昌永 編輯

筆算題叢

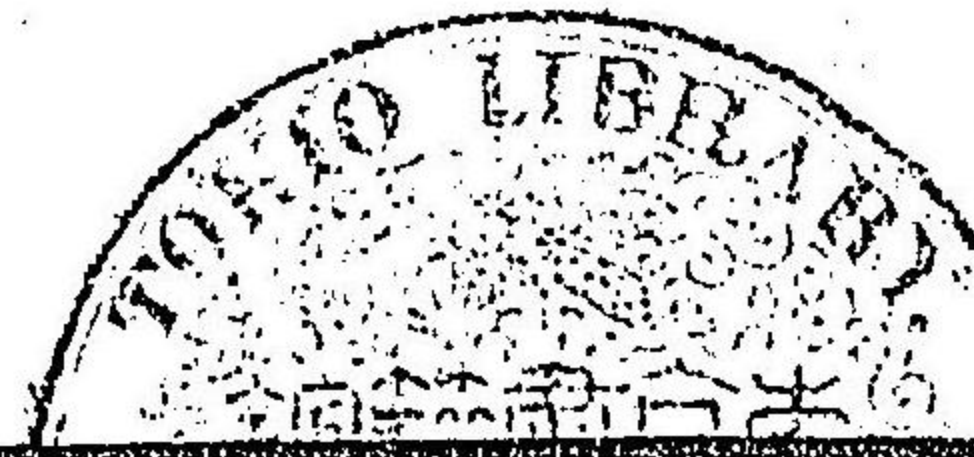


明治九年十月二十六日版權免許

同 九年十月十三日出版

文林堂 發

算教會



筆算題叢
按分連折
比例

測學級數の別名
比例の一種あり故に按分
連折比例を終る差分の異名とされり然るに英亞兩國の
數學書中會社算法(パートネルシツア)或は(エルロシツア)
あり者差分は類似するを以て洋算創めり行なう
の際之を差分と譯せしより轉遷し亦之を按分連
折比例と稱するに至り慣習の久しき之を改むる
に便あり故に改めざるも亦必しも妨害なきを以て敢

明治九年十月二十六日

筆算題叢卷之一

て其名稱を更正するを要せむ
 按て遞折比例洋名譯會社算法ある者々數人聯合し
 て一事業を奏功し其各人の勞逸或は出金の多少等
 ふ因て差等を立收利を配分するの術ありて之を單
 復二法とし次に類似の諸法數條を掲げて秀才進歩
 の一助とす

第一法

假令を甲乙丙の數より比準して他の物數を分んと欲
 すれば先甲乙丙を合せ之を以て他の物數を除く其
 商を特別し甲乙及丙へ乘り答數を得るあり今左よ
 「ベネブル」クエッケンボス「チャンブル」三氏の公式を掲て之を詳

うふま

(7) 金八十圓を甲乙丙の三人に配分するあり其割合
 二と三と五との如しとりふ因り各の所得を問

例

一 $\frac{2}{70} \times 80 \text{圓} = 8 \text{圓}$ 金
 $\frac{3}{70} \times 80 \text{圓} = 8 \text{圓}$ 甲
 $\frac{5}{70} \times 80 \text{圓} = 8 \text{圓}$ 乙
 $\frac{2}{70} \times 80 \text{圓} = 16 \text{圓} = \text{甲}$
 $\frac{3}{70} \times 80 \text{圓} = 24 \text{圓} = \text{乙}$
 $\frac{5}{70} \times 80 \text{圓} = 40 \text{圓} = \text{丙}$
 $80 = \text{金}$

二 $\frac{2}{70} \times 80 \text{圓} = 16 \text{圓} = \text{甲}$
 $\frac{3}{70} \times 80 \text{圓} = 24 \text{圓} = \text{乙}$
 $\frac{5}{70} \times 80 \text{圓} = 40 \text{圓} = \text{丙}$
 $1 \times 80 = 80 = \text{金}$

三 $10 : 2 :: 80 \text{圓} : 16 \text{圓} = \text{甲}$
 $10 : 3 :: 80 \text{圓} : 24 \text{圓} = \text{乙}$
 $10 : 5 :: 80 \text{圓} : 40 \text{圓} = \text{丙}$

上の如く二、三、五を合せ
 十とある故に配分する所の總
 數を十とすれば割合の一部
 即ち十の一あり之へ金八十圓を
 乘るとこれを金八圓とあり即配
 分金八十圓の一部分とあり之へ
 二を乘ると甲の所得は又三或
 は五を乘ると時乙或は丙の
 所得を得るあり蓋し三の式
 ハ「ベネブル」氏の數學書より抄

算術題集卷之十一

譯せし所ありて曰く「シラケレボス氏國を「シヤブル」氏の公式を撰
 せし者あり初學其好む所に従て可あり

(2) 二百四十三個を三分をるり其割合三分二と四分
 三と六分五との如しとゆふ因り其各數を問

例 $\frac{5}{6}, \frac{7}{12}, \frac{2}{3}, \frac{8}{12}$
 $8+9=17, 10=27, 243=9$
 $\frac{7}{27} \times 243=9, 9 \times 8=72, 9 \times 9=81, 9 \times 10=90$
 上の如く三分二、四分三、六分五を通して同母各數
 となし時を「第四卷通分」に依り十二分八、十二分
 九、十二分十とあり、同母各數の割合は、渾て其各
 子の割合は同一と故に分子八、九、十を合せて二十とあり自
 余前法に依りて之を算し七十二、九十九を得て答とす

(3) 一千六十五個を三分をるる其割合假令を三五七、
 或ハ三分一、五分一、七分一の如くせんと欲を然る
 時々前後の各數幾何あるや

(4) 一千四百個を四分をるるあり其割合假令を一八二

(5) 清水と水素酸素の二氣八百八十九と百十一との
 割合を以て抱合せし者あり今清水三斤の中は含
 む二氣の斤兩各幾何あるや

(6) 大砲地金の質を銅一百分錫十一分を混鑄せし者
 あり今一千八百八十七斤の加農を鑄立んと各
 幾斤を要するや

(7) 兄弟相共ふ筆耕をある毎日兄は三十七枚を寫
 し弟は二十九枚を寫を今九千五百七十枚の書籍
 を寫すに當て兄弟各幾枚宛分つるべきや

(8) 地位等級相同しき二個所の地面あり其坪數合計

十七、六十四の如し因り其各數を求む

七千四百十九坪ふ〜一個所ハ地租金十圓八十
六錢一個所々地租金十三圓八十七錢納むとの
然る時々二個所の地積各幾何坪あるや

(9) 甲乙の馬車あり甲々一時ハ三里十一町走り乙々
一時ハ三里十六町走る今其距離二十八里十二町
三十六間ある東西兩府より相向て同時ハ發する
時々各幾里を驅馳〜相會を處きや

(10) 父金三百圓を出して兄弟ハ與へて各年齢ハ比準
して之を分ち取る處〜との今兄ハ二十一年七
個月弟ハ十五年五個月あり然る時々如何分つ
きや

(11) 金貨ハ純金九百分銅百分を鎔和〜製造せし者
あり今金貨二千圓量目八百八十
七匁三分六厘の中ハ含む純金銅各
幾何匁あるや

(12) 火藥の製法ハ硝石七十六分木炭十四分硫黄十分
を混和せし者あり今百二十斤の火藥を製せん
ハ硝石木炭硫黄各幾何斤を要するや

(13) 朱ハ水銀百分硫黄十六分を鎔合せし者あり今百
四十五匁の朱ハ水銀硫黄各幾何匁を含むや
(14) 甲乙丙の三人合カして一商業をあると甲ハ資金
百八十圓乙ハ資金二百四十圓丙ハ資金四百八十
圓を出たり結末ハ至つて利益金三百圓を得

といふ此配分方如何

(15) 共有學校を設け其保護資本と一幹事を金二万圓教頭を金一万二千五百圓豫科教頭を金四千五百圓を出せり然るに資本金の利子と生徒の月謝とを合せ一ヶ年の諸入費を仕拂尚剰余金九千二百五十圓あり今出金高ふ應一之を配分せんといふ因各の所得を問

(16) 甲は金一千二百圓乙は金一千三百圓を出して一個所の地面を買之を共有し貸地代金二百十圓を得たり此配分方を問

(17) 甲乙相共し金三十圓の飼草を借り甲は牝牛三匹

乙は牝牛五匹を蓄ふ今飼草の代價を拂ふ當て各出金を各所幾何圓あるや

(18) 或人遺言して金一千二百圓を長子金一千圓を次子金六百圓を女子と與んとし死後至り全所有金高只八百圓ありといふ然る時如何配分せんや

(19) 堤防費金八百九十五圓九十錢を上中下三ヶ村の段別賦課を今上村を反別百十町三反二畝歩中村を反別八十町八反八畝歩下村を反別九十七町八反歩あり因各村の出金高を問

(20) 一等官林の樹數を算するに六千七百五十七本と

檜いのふいくく其他いをを縦縦あり今檜いの目通め周廻しゅうかいを量はかるよ
 此林この總樹數そうじゆ二十四分一いちと目通め六尺周しゅう以上九分
 一と目通め三尺周しゅう以上七分一と目通め一尺周しゅう以上六
 分一と目通め一尺周しゅう以下ありといふ然る時々大小
 檜いの數かず各幾何いづあるや
 (27) 一村いちを丈量ちやうりやうせしふ該地盤がいちばんの中七分二と山林さん九分
 一と秣場ま八分三と耕地けいち十二分一と荒地あ二十一分
 一と宅地たくちふく其他いを悉しつ皆官有けい無稅地むぜいちあり今民
 有地いうちの反別はんべつを算さんするよ合計くわいけい三百八十九町八反四
 畝せ十二歩ありといふ然る時々山林并外あ四種しゆの民
 有地いうち反別はんべつ各幾何町歩ちゆうぽあるや

(22) 二十圓金十圓金五圓金二圓金一圓金個數各等い
 くく總高金そうかう一千九百圓あり各の金高如何
 (23) 或ある小學教員せうがく小學師範學校せうがくの檢査けんさを請こふ其試標しひょう
 の點數てんすう本科ほんかと總極點そうごくてんの九分二漢藉かんせきと同く八分三
 算術さんじゆと同七分二によりく三科合計さんか四百四十五點あ
 りといふ然る時々每科まいかの點數各幾何あるや
 (24) 大中小三艘だいの軍艦ぐんかんあり大艦だいと衆組しゆぐみ六百二十人中
 艦かんと衆組しゆぐみ四百五十人小艦せうかんと衆組しゆぐみ百八十人あり今
 三百七十五石の糧米りやうまいを各艦衆組かくかんしゆぐみの人員じんいんに應おじて
 積入せきいせんと其配分たいぶん如何
 (25) 鯉こい一頭いちとう三十二錢さんじにせんふて脊節せふせつと腹節ふくせつと其價あ二十

(26) 一と十九の如しといふ因て脊腹各一節の價を問
種藝場を設置するあり敷地三千七百七十坪を五
七、十一、三の如く分割して田圃園池を開かんとい
各坪數幾何あるや

(27) 或將五千の兵を率ゐて出陣し初め敵の四分一は
對する兵を出して戦ちしめ次は敵の九分二は充
る兵を出して敵の尤翼を撃しめ尚敵の六分一は
充る兵を應援し出し自ら敵の十二分五は充る兵
を率ゐて中軍は備へ輜重衛二百五十人を最後は
備ふといふ然る時々分隊人員各幾何あるや

(28) 甲乙丙の織夫あり甲と一日は綾四分一端を織り

乙と同十四分五端を織り丙と同二十一分八端を
織得るといふ今四百十五端の綾を織んとするに
各幾端を要するや

(29) 農夫五人より一坐の官山を拂請たり其反別甲と
十三町二反一畝二十六歩乙と八町七反十四歩丙
と九町八畝二十二歩丁と二十六町十二歩戊と十
一町九反八畝十六歩あり今其境界を定めんと欲
して實地丈量をあらたるとし實積百三町五反歩あ
りといふ然る時々五人の農夫各得る所の山地反
別幾何町歩あるや

(30) 甲乙丙丁戊己六人の工匠共一室を營し賃金五

十二圓を得たり然るは甲は二十三日乙は十九日丙は十六日丁は二十日戊は十五日己は十一日勉業せり因て各働きの日數を以て此賃金を分つとゆふ然る時各の得る所幾何あるや

第二法

假令を甲乙丙の數各異なる倍數を有する者より比準して他の物數を分んと欲をれを先甲乙丙の諸數へ各自該倍數を乗し相乘數三件を得此三件の和を以て他の物數を除し其商を特別し前三件の相乘數へ乘し答數を得るあり今前顯三氏の公式を掲て初學を示す

(1) 甲乙丙の三人相併合して商業をなすを各出を所の資本金より差あり又其月數より長短あり今甲は金四百圓を出し二ヶ月を経る之を収め乙は金三百圓を四ヶ月間出し丙は金五百圓を出し三ヶ月の後之を収めたり而して利を得る所の金三百五十圓ありといふ此配分如何

例

$$\begin{array}{l} 400 \times 2 = 800 = \text{甲} \\ 300 \times 4 = 1200 = \text{乙} \\ 500 \times 3 = 1500 = \text{丙} \\ \hline 3500 \end{array}$$

$$\frac{1}{3500} \times 3500 = \frac{1}{70}$$

$$\frac{1}{70} \times 800 = 80 = \text{甲}$$

$$\frac{1}{70} \times 1200 = 120 = \text{乙}$$

$$\frac{1}{70} \times 1500 = 150 = \text{丙}$$

$$\frac{1}{70} \times 3500 = 50 = \text{金}$$

上の如く甲は金四百圓を二ヶ月間出し置故に四百圓へ二ヶ月を乗し八百圓とあり即金四百圓二ヶ月間出したるは金八百圓を一ヶ月間出したる者と同法を以て乙の金三百圓を四ヶ月間出せしは金千二百圓を一ヶ月間出したる者と同法を以て丙の金五百圓を三ヶ月間出したるは金千五

$$\begin{aligned} & \frac{800}{3500} \times 350 = 80 = \text{甲} \\ & \frac{1200}{3500} \times 350 = 120 = \text{乙} \\ & \frac{1500}{3500} \times 350 = 150 = \text{丙} \\ & 1 \times 350 = 350 = \text{金} \end{aligned}$$

三

$$\begin{aligned} & 3500:800::350:80 = \text{甲} \\ & 3500:1200::350:120 = \text{乙} \\ & 3500:1500::350:150 = \text{丙} \end{aligned}$$

三

百圓を一ヶ月出したる者も同一の事を知らず然るに先づ甲は八百圓乙は千二百圓丙は千五百圓の資本を各一ヶ月間出して得る利を配分すると同一あるを以て此三件の金員は比準して利潤金三百五十圓を分つて第一法は倣ふなり且曰

三 曰目の式と第一法の解は頭一たる如く三氏公式の符号あり

(2) 三人協力して商業を営み滿一年ありて利潤金二千九百十九圓を得たり之を配分するに各出を所の資本の多少と其月數の長短とを比準せんとし今第一商人は始より全十二ヶ月の間金四千圓を出し第二商人は三ヶ月の後より金五千圓を出し夫

より三ヶ月を経て又金三千圓を出し第三商人は始め金三千圓を出し其内金二千圓を滿期より四ヶ月前より收入せりとり然る時各所得金幾何あるや

例

$$\begin{aligned} \text{第一} &= 4000 \text{圓} \times 12 = 48000 \\ \text{第二} &= 5000 \text{圓} \times 9 = 45000 \\ \text{第三} &= 3000 \text{圓} \times 6 = 18000 \\ & \underline{\hspace{1.5cm}} \\ & 63000 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{第一} &= 3000 \text{圓} \times 8 = 24000 \\ \text{第二} &= 7000 \text{圓} \times 4 = 40000 \\ & \underline{\hspace{1.5cm}} \\ & 28000 \\ & 73000 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \frac{48}{730} \times 2979 &= 1908 = \text{第一商人の金} \\ \frac{63}{730} \times 2979 &= 7323 = \text{第二商人の金} \\ \frac{28}{730} \times 2979 &= 588 = \text{第三商人の金} \end{aligned}$$

上の如く第一商人の金四千圓を全年即十二ヶ月の間入金せしむるに四万八千圓を一ヶ月入金せしむるに同く第二商人の三ヶ月の後入金せしむるに即九ヶ月間五千圓出たりとるに金四万五千圓を一ヶ月出したるに同く亦尚三ヶ月を経て三ヶ月引即六ヶ月間三千圓を出したるに一万八千圓を一ヶ月出せしむるに同く合計六万三千圓を一ヶ月間入金せしむるに同く第三商人の金三千圓を滿期より四ヶ月

月前十二月より即ハヶ月間出せし二万四千圓を一ヶ月間出せしと同く
亦満期より四ヶ月前より金二千圓を收入し三千圓より残り一千圓を四ヶ月間出せ
しハ金四千圓を一ヶ月間出せしと同く合計二万八千圓を一ヶ月出せしと同く
是ハ於て第一商ハ金四万八千圓第二商ハ金六万三千圓第三商ハ金三万八千圓
各一ヶ月間入金せし者ト同一故ニ是ニ比準して利潤金二千九百十九
圓を分つて第一法ニ依ふる

(3) 甲乙丙三人の機械職相共一の機械を製し金三
百八圓七拾九錢を得たり之を配分せし各働
し日時を以てせんと欲を今甲ハ毎日七時宛十六
日又四時宛五日働きたる毎日八時宛十六日働きた
丙ハ毎日十二時宛七日又七時宛三日働きたるとい
ふ然る時々各所得金幾何あるや

(4) 曠原へ松杉檜の苗を植るあり其三種の苗木の數
恰も五と六と七との如く又價も各百本に付松苗
ハ金七十五錢杉苗ハ八十三錢檜苗ハ九十八錢ニ
し總計金二千六百五十圓三十錢ありといふ然
る時々三種の苗木代價各幾何あるや
(5) 地位同等ある三ヶ所の賣地あり甲地ハ間口七間
奥行十二間乙地ハ間口五間奥行八間四分丙地ハ
間口九間奥行十間ふし地價合計金三百六十圓
ありといふ然る時々各地の代價幾何あるや
(6) 或高賈薩州木綿二十八端細麻布八十四端絞り木
綿三百六十一端仕入たりし其元價各一端に付

薩州木綿へ金二圓三十錢細麻布へ金三圓六十錢絞り木綿へ金一圓二十錢小直きり今之を賣捌き金百圓の利潤を得んよ各一端の價を何程り定むるべきや

(7) 三艘の漁船あり發港を多ふ當つて糧米六百四十七俵を乗組人員と航海日數とを比準して分配せんとし今第一号船を乗組七十六人ふり航海日數三百六十日の目途第二号船を乗組百四十四人よて航海日數七十五日の目途第三号船を乗組八十五人ふり航海日數百六十日の目途ありとゆふ然る時々各幾俵の糧米を積入るべきや

(8) 豪農所持の山林耕宅地よて歲入金二万二千二十五圓あり其山林を地租村費合計金三千六百圓ふりて七朱御布告面よ因て地價利ふ當り耕地を地租村費合計金八千六百五十圓ふりて六朱利ふ當り宅地を地租村費合計金二千二百圓ふりて五朱利ふ當るといふ然る時々山林耕宅地各の歲入幾何圓あるや
(9) 馬車牛車人力荷車相共よ若干の荷物運輸を金二十四圓四十五錢よて請負其運ふ所の貫數を應じ賃金を配分せんと約を今馬車を百二十貫の荷物を七度猶百三十五貫の荷物を六度運送を牛車を百八十八貫の荷物を二度又二百二十五貫の荷物を三度運送を人力荷車を七十三貫の荷物を三

度八十五貫の荷物を四度運る然る時々各車の所得幾何あるや

(10) 茶商あり上茶九十八斤を甲へ中茶百二十六斤を乙へ下茶五百七十八斤を丙へ賣き其上中下茶の價每斤比較を八と七と三の如く又代價總計金三百六圓あるとゆふ然る時々甲乙丙拂金員各幾何圓あるや

(11) 甲乙の僧あり甲を四月の初より金八百圓を資本とありて商業を始めし七月の初より乙之を加し金一千圓を資本と出して共々商業を營みし其年の終りし至て金三百三十圓の儲ありとい

ふ然る時々各所得幾何あるや

(12) 甲乙丙の牧夫相共し一ヶ年金九十圓を出して牧場一所を借り甲を燻牛六頭を四ヶ月畜し乙を燻牛十頭を三ヶ月畜し丙を燻牛三頭を十二ヶ月畜しといふ然る時々各出金高幾何圓あるや

(13) 甲乙丙の筆耕者あり甲を一時し七枚宛一日し六時間寫し乙を一時し五枚半宛一日し十一時間寫し丙を一時し四枚宛一日し十時三十分間寫すとゆふ今四千九百十三枚の書を同時し寫し終んし各幾枚宛分つ可あるや

(14) 甲乙相共し商業を営み其資本甲を六ヶ月間金三

百二十五圓を出ししと八ヶ月間金二百圓を出して結局金百圓の損をまゝたり然る時も甲乙各の損金幾何圓あるや

(75) 甲乙丙三人社を結び石炭坑を開き初年は金三千二百八十五圓の利あり然るは最初甲は資本金一万圓を出し九ヶ月の後に至り其金の半を收入せり乙は二ヶ月後入社し資本金二万圓を出し丙は歳末より五ヶ月前入社し資本金一万二千圓を出したりといふ因て利益の配分方を問

類例

(7) 甲乙の兩人協力して商業をなさし其資本出金高

甲は乙より三百五十圓少あり其利金を配分せしむるに當て甲は金三百三十一圓二十五錢を得乙は金三百七十五圓を得たりといふ然る時も各資本出金高幾何あるや

例一

$$\begin{array}{r}
 375.00 = \text{乙の利} \\
 331.25 = \text{甲の利} \\
 \hline
 43.75 = \text{甲乙の差} \\
 \text{資本の差} \quad 350.00 = \text{圓} \\
 \text{利の差} \quad 43.75 \\
 \hline
 8 \times 375 = 3000 = \text{乙} \\
 8 \times 331.25 = 2650 = \text{甲} \\
 \hline
 350 = \text{差}
 \end{array}$$

金三百五十圓を甲乙の資本金の差あり故に又甲乙利の差を求めて之と比較せしむるより故に乙得金三百三十一圓より甲の得金三百三十一圓二十五錢を引残り四十三圓七十五錢を得之を以て資本の差三百五十圓を除く八圓とあるは於て資本と利金の八倍あるを知る故に甲乙各の所得八圓を乗し乙の資本金三千圓甲の資本金二千六百五十圓を得て答しむ

(2) 東西両村あり東村は西村より反別四町五段九畝

少く今用水路を掘割西村へ分水をさるふ反別の多
 少よ比較せり其堀幅東村々一間一尺二寸西村々
 一間二尺九寸ありとり然る時々西村反別各幾
 何町歩あるや 實地分水の算法を元より小學の辨解を
 所よあらざる故に只其幅よ比較せざるを要す

(3) 一等二等の田地あり一等田地々二等田地より一
 反歩の收穫米三斗多し今一等田地々反別三反八
 畝歩ふし地價金二百三圓四十九錢二等田地々
 反別二反三畝歩ふし地價金百五圓五十七錢奈
 りとりふ因り問ふ利子相同しき時々此両田の收
 獲米各何石あるや

(4) 小學校に於て一級二級の生徒を賞するふ一級生

一員半紙十帖二級生一員半紙七帖を以てて其人
 員二級生々一級生より多き事十一人一級生へ與
 へたる紙の總數々二級生へ與へたる紙の總數よ
 り三十七帖多しとり因り問ふ一級生及び二級
 生へ與へたる紙の總數各幾何あるや

(5) 甲乙の汽船あり甲船々一里を三分二十秒間よ走
 り乙船々一里を四分間よ走る今甲乙兩船同時よ
 丙港を發し丁港へ航せし乙船々甲船より二時
 四十分後よ着港せりとり然る時々甲乙船各
 幾何時間を費せしや

(6) 某港より大小兩嶋迄の距離を知んと欲し實測画

圖を披き圖中は掲載せる尺度を以て其距離を量るる某港より大嶋迄六寸三分一厘小嶋迄四寸八分六厘あり然れども一里を何寸の割に画きし哉を詳くみせし只小嶋と大嶋より某港へ近き事二十九町あるを知る因て各の距離を求む

(7) 日本全國の山川原野と耕宅地と其積凡百八十三と十七との如し今山川原野の地積を耕宅地の積より多き事反別三千三百七十八万二千二百九町二畝歩ありといふ然る時山川原野及び耕宅地の反別幾何町歩ありや

(8) 或人杖時計を買へり附屬品共合價金八十一圓五十

150
120
25

錢あり其各價の比較假令を時計と鐘とを三と二の如く又鐘と磁石との六十と十三との如くと云ふ然る時時計鐘磁石の價各幾何ありや

例	時計	3	鐘	2	磁石	13
	時計	60	鐘	73	磁石	25
		$3 \times 60 = 180$		$2 \times 73 = 146$		$13 \times 25 = 325$
				時計	鐘	磁石
				180	146	325
				時計	鐘	磁石
				45.00	30.00	6.50
				時計	鐘	磁石
				87.50	87.50	87.50

此題々互乘法に因て各價の比較を求め算る者あり其互乘法たる童蒙輩辨解易からざる故に一法を設けて誤謬を免るべしゆんを要と益上の如く時計と鐘との比較三と二を左右に分けて記し次の比較三と二を左右に分けて記し次の比較三と二を左右に分けて記し次の比較三と二を左右に分けて記し

ふ右と同名ある鐘の比較六十を左の下に記し之を對する磁石の比較十三を右の下に記し左行三と二を相乘して百八十とある時計の比率と右の上二と左の下六十を相乘して百二十とある鐘の比率と右行二と十三を相乘して二十六とある磁石の比率と此三つの數を合せて三百二十六とある余は前法按て通折比例に依りて答數を求むべし

Handwritten notes at the top right of the page, including numbers like 918 and 1157.

Handwritten notes at the top left of the page, including numbers like 792 and 1157.

(9) 金五万六十三圓を 甲乙丙丁戊己の六人にて配分
 せらるる甲と乙との二と三との如く乙と丙との九
 と八との如く丙と丁との四と七との如く丁と戊
 との十六と五との如く戊と己との十一と六との
 如しとりぬ因て各人の得る所を問ふ

最初甲と乙の割合二と三を左右に分て記し甲を左の二項とし乙を右
 の一項とを次よしと丙との割合の中右の二項より同名ある乙の割合九
 を左の二項より丙の割合八を右の二項より再次丙と丁との割合の

二
 甲^乙 9^丙 4^丁 16^戊 11^己
 乙^丙 8^丁 7^戊 5^己 6
 中右の二項と同名ある丙の割合四を左の三項と丁の
 割合七を右の三項とを逐次如此にして數盡て止め左
 行二九四十六十一を連乘して甲の比準とし右の二項三と左の
 二項以下九四十六十一を連乘して乙の比準とし右の二項以上
 三八と左の三項以下四十六十一を連乘して丙の比準とし右の

配分の比準

二之例

$$2 \times 9 \times 4 \times 16 \times 11 = 528 = \text{甲}$$

$$3 \times 9 \times 4 \times 16 \times 11 = 792 = \text{乙}$$

$$3 \times 8 \times 4 \times 16 \times 11 = 704 = \text{丙}$$

$$3 \times 8 \times 7 \times 16 \times 11 = 1232 = \text{丁}$$

$$3 \times 8 \times 7 \times 5 \times 11 = 385 = \text{戊}$$

$$3 \times 8 \times 7 \times 5 \times 6 = 210 = \text{己}$$

$$\frac{50063}{3857} = 13 \text{ 圓 } 61 \text{ 匁}$$

528 × 13 = 6864	甲
792 × 13 = 10296	乙
704 × 13 = 9152	丙
1232 × 13 = 16016	丁
385 × 13 = 5005	戊
210 × 13 = 2730	己
50063 = 合計	

答

三項以上三八七と
 左の四項以下十六
 十一を連乘して丁
 の比準とし右の四
 項以上三八七五
 と左の五項十一を
 連乘して戊の比準
 と右行三八七五

(10) 四個村の戸數に賦課せらるる區入費金三百三十八
 圓二十錢あり該四個村戸數の比較譬を西村と南
 村と連乘して己の比準とし此を連乘する始末の如く各數の間へ乘号を記
 連乘せし形をかき若各比準中より同乘數あれば之を省き然る後各連乘
 して之を合せ三千百五十二と得法として配分金五万六十三圓を除く配分金の一部
 分十三圓を得是を各比準の數に乗し甲乙丙丁戊己各の配分金を得て答とす

村と々七と五との如く南村と東村と々九と八との如く東村と北村と々四と三との如くとり然る時ハ東西南北の四個村各へ賦課たる金員幾何あるや

(11) 上中下の酒合々六百六十四駄一駄ハ二樽を買ふあり其樽數上酒と中酒と々十一と六との如く中酒と下酒と々八と五との如くとり然る時々上中下酒各幾樽宛あるや

(12) 人體の骨を頭骨胸骨上肢骨下肢骨の四類に分つ其數合計二百八枚より假令を頭骨と胸骨とハ五と九との如く頭骨と下肢骨と々一と二との如く上肢骨と下肢骨と々十六と十五との如くとり

ふ因く問ふ四類の骨數各幾枚あるや

(13) 或將敗歸して其失ひ人員を調査するふ總軍三千四百四十人の中戦死の兵と傷兵と々七と十との如く又戦死の兵と逃亡兵と々五と九との如く逃亡兵と歸陣の兵と々十四と百二十との如くとり然る時々各人員幾何あるや

(14) 牧夫あり牛羊豚合して三百頭を畜ふ其數假令を牛と羊と々八と五との如く牛と豚と々二十四と十一との如くとり然る時々牛羊豚各幾何頭あるや

(15) 或外國語學校に於て生徒百八十八人を上中下三

級より分裂するは上級生と中級生と々三と七との如く上級生と下級生と々二と九との如くといふ然る時々各級人員幾何あるや

(16) 上中下の農夫あり假令を上農と中農と々其力七と六との如く中農と下農と々其力九と八との如くといふ今上中下の農夫合力一田を耕し賃金一圓三十二錢を得るといふ然る時々此配分が如何

(17) 或区内へ中學校を新營せんとするに入費積り金五千二百九十二圓あり區長此費金の内金三千四百二圓を出さんとといふ副區長も其不足を補せんと

りふ然るは区内正副戸長相共金四千三百二十圓を出し其不足を區長に要せんとといふ今各希望する所の出金高は比準して其新營費を公平に當る分賦せんを求む

(18) 或人七百八里の旅行をありて汽船汽車馬車等に乗し或は歩行せし里數を比較するに汽船と馬車と々三分一と五分一との如く馬車と歩行と々二分一と九分一との如く又歩行と汽車と々七分一と四分一との如くといふ然る時々汽船汽車馬車歩行等の里數各幾何あるや

(19) 奏任判任等の三人同行して管内を巡回し旅費

合計金百六十一圓を賜をせり之を分配せしむ奏
任と判任と々々八分一と十一分一との如く奏任と
等外と々々二十分一と五十五分一との如くとの如

然る時々各賜する所の金員幾何あるや

(20) 梅園に緩歩し其樹數を問ふよ紅梅と談紅梅と々々

三分一と四分一との如く又紅梅と白梅と々々二十

四分一と五分一との如くし々總樹數三百九十三

本ありと答ふ然る時々三種の梅樹各幾何

(27) 豪農所持の田地より収むる所の米合し々一万五

百五十石あり其獲る所早稻と晚稻と々々十四分一と

九分一との如く早稻と糯と々々三分一と八分一との如く

り然る時々早稻晚稻糯の苞數各幾何あるや

(22) 甲乙丙丁の四人金二千三百二十九圓を配分せしむ

は假令バ甲と乙と々々二十四分一と二十五分一と

の如く乙と丙と々々八分一と六分一との如く丙と

丁と々々七分一と四分一との如くし々因々各の

所得を問

(23) 甲乙丙の農夫三十町七反五畝歩の曠野を開墾せ

るふ假令バ甲と乙と々々十四分五と一との如く乙

と丙とへ十一分七と一との如く開きしし因

て問ふ各開墾せし町歩幾何あるや

(24) 大中小三器の唧筒を用みて二千九百二十四立方

間まの溜水りゅうすいを注つぎ出だすふ唧筒せきとうの力ちから假令たとへば大と中と
と一と六十四分五十七との如く中と小とと一と
三十八分三十四のこやうしといふ然る時と各一器
み注つぎ出だせし所ところの水幾何立たち方間かたまあるや

(25) 漁獵りよくをあして獲とる所の魚うまを配分くわいぶんするふ假令たとへばを船主せんぬし
と網主あみやとと七分五と一との如く網主あみやと漁夫りよくとと八分

七と一との如く分ぶんとんと約やくし網あみを卸おろして魚うま一千二
百尾ひゃくびを得えたり然る時と各幾尾いくびの魚うまを受うるや

(26) 農夫のうふ所持しよぢの茶園ちやえんより産うむる所の上中下茶かみちげ合計くわいけい三

百四十六斤ひゃくしじゅうろくにん三十目さんじゅうもくあり其斤數そのしんすう比較ひかく假令たとへば
上茶かみちと中茶なかつちとと四分三と五との如く中茶なかつちと下茶したち

とと六分五と七との如くしといふ然る時と上中下
茶ちやの斤數しんすう各幾何いくにあるや

(27) 廢寺はいじの古鐘こしょう一器ひとひら重おもさ四貫しげん八百六十三匁はつむす七分あり

今之いまこれを鎔解とろか分拆ぶんさつするに銅どうと錫しやくとと五分二十分十

一との如く錫しやくと銀ぎんとと三分八分七との如く銅どうと

(28) 學校がくこうの旗杆はたざらを建設けんせつするあり杆長かみち十八間じゅうはちま一寸短いちゆんたん

今此杆いまこのかみを黑白くわいはく色いろに塗ぬり分ぶんんとを其割合そのわりあ假令たとへばを土ど

中ちゆうに埋うむる所ところと黒色くわくしきとと九分五と十九分八との
如く又白色くわくしきと地入ちいりとと五分三と十六分一との如

いふ然る時々土中埋る所幾尺ふ〜又黒
白各幾尺あるや

(29)

甲乙丙の職人あり其業前の遅速假令と甲の四分
三時ふ〜落成をくき一事をひ々三分二時〜
て之を成〜乙の七分五時〜〜得る一事を
丙々六分五時ふ〜奏功を今三人共〜業〜就〜
若干日ふ〜賃金合〜十三圓八十四錢を得たり
然る時々各所得幾何圓あるや

(30)

或商人四千五百十六反の白木綿を四色染んと
を其割合假令を紺と白茶と々九分七と八分五と
の如く葡萄鼠と白茶と々六分五と七分三との如

く葡萄鼠と淺黄と々十分七と四分三との如くせ
んといふ然る時々各色幾反宛染て可あるや

(31)

或翁其貯金三万二千八百二十五圓を出〜伯仲
叔季の四子ふ示〜汝等之を分つ〜其割合假
令を叔と季と々五分三と七分四との如く季と仲
と々三分二と十一分八との如く伯と仲と々七分
三と十二分五との如くせよといふ然る時々此四
子各受る所の金高幾何あるや

(32)

甲乙丙丁の四婦布を織るふ其業前假令ハ甲婦の
一反七分四織る間〜乙婦々二反六分一を織り乙
婦の二反三分一織る間〜丙婦々二反五分二を織

り丙婦の一反十一分二を織る間、丁婦を一反を織るとり、今八十二丈四尺五寸の布を此四婦に織らしめ、同時に落成あさしめん、各幾尺を賦し、可あるや

(33) 佛國中學校一ヶ年の諸費合計、金六千四百四十六万八千七十二元あり、其課出比較、假令を官費と區費とハ十一個十六分十三と十二個六十三分四十三との如く、縣費と自費とをハ十七分二と七個七分六との如く、自費と區費とをハ百九十一個四分一と九個百六十五分百十三との如しとのみ然る時、ハ官費、縣費、區費、自費、各幾何元あるや

(34) 甲乙丙丁戊の五人相共、米商會社を結ひ、各分限し、應し出を所の資金比較、假令バ甲と乙とを一個七分二と一個八分三との如く、乙と丙とを一個六分一と三個五分四との如く、丙と丁とを一個五分二分五と六個八分三との如く、丁と戊とを三十一個六分一と十一個十三分五との如し、今年末に至りて其利益を算むると、金八千九百六十七圓ありとのみ然る時、各所得金幾何圓あるや

(35) 幅員百七十八町五段八畝十五歩の原野を開墾する、初年より次第、四と五との如く畝歩を増し、て開き五年あして落成せりとのみ然る時、各年々

開く所の反別各幾何町歩あるや

三之例二

4年	5年	$4 \times 4 \times 4 \times 4 = 256 =$	初年
4年	5年	$5 \times 4 \times 4 \times 4 = 320 =$	二年
4年	5年	$5 \times 5 \times 4 \times 4 = 400 =$	三年
4年	5年	$5 \times 5 \times 5 \times 4 = 500 =$	四年
		$5 \times 5 \times 5 \times 5 = 625 =$	五年
		$2107 =$	五年

$17858^{\text{畝}} \div 15^{\text{畝}} = 17858^{\text{畝}} \cdot 5$

$\frac{17858^{\text{畝}} \cdot 5}{2107} = 8^{\text{畝}} \cdot 5$

$256 \times 8.5 = 2176$	= 畝
$320 \times 8.5 = 2720$	= 畝
$400 \times 8.5 = 3400$	= 畝
$500 \times 8.5 = 4250$	= 畝
$625 \times 8.5 = 5312.5$	= 畝
$17858.5 =$	畝

(36) 或人後園ふ竹を植ふ始め竹を生せり日々之を見るふ追日次第ふ三と五との如く長く七日

百七十八畝五反八畝十五歩を
次第ふ四と五の割合に開
墾せし故に初年と二年
目より四と五の如く又三年目
と三年目より四と五の如く
逐次此の如く開墾せし者
ある前の例に倣ふて其
割合を左右ふ合て記次
余渾て前法に從て各年の
開墾畧を得る事上の如

目よ至る全長一尺三寸一分一及べりとり然る時日々長を事各幾何寸あるや

(37) 或士族所持金三千圓を資本とあつて空米を賣買し初月より次第ふ二分一と五との如く損をあげて満三ヶ月よ至り金七百圓の債を負りとり然る時々各月の損幾何圓あるや

(38) 六人の商賈相共し金二万二千九十七圓九十錢を出し米若干俵を買ひ之を分つ事次第ふ六個七分六と八個との如しとり然る時々六人各出を所幾何圓あるや

(39) 井を穿つあり初日より次第ふ五分二と三分一と

の如く穿ち五日ふし鉄鑄土中へ突入する事十
五間三尺二分爰に於て水を得たりとらふ然
る時を日々幾何尺を穿ち得しや

(40)

一等士官一人二等士官一人三等士官二人伍長四
人兵卒百二十人より金四千二百五十三圓三十錢
を分捕せり今之を分つよ毎一人の配分比較一等
士官より次第より三個五分二と二個七分三との如
しとのふ然る時各所得金幾何圓あるや

(41)

一座の鑛山あり開坑の初月より毎月白銀輸出高
の増加する事次第より五個九分二と六個七分五と
の如くふし半年の輸出合計二万五千八百六十二貫

目あり空り然る時各月の白銀輸出高幾何貫目
あるや

(42)

金三百三十圓を甲乙丙に分與するふ甲の所得二
倍を乙の所得三倍分均しからしめ乙の所得四倍
を丙の所得五倍均しからしめんとを要を

三

甲 乙 丙
3 2 4
5 4 4

例

$3 \times 5 = 15$
 $2 \times 5 = 10$
 $2 \times 4 = 8$
33

$\frac{1}{33} \times 330 = 10$ 圓
 $10 \times 15 = 150$ 圓 = 甲
 $10 \times 10 = 100$ 圓 = 乙
 $10 \times 8 = 80$ 圓 = 丙
330 = 金

答

甲の三倍乙の三倍分均しを故に之を五乗し
甲の倍数三を乗したる者乙の倍数三を二
を乗したる者同し此三と三六即甲と乙との
割合ありと判然たり爰に於て甲と乙とを
三と二との如し同法に因て乙と丙とを五と
四との如きを知る自余第二例は做して之を算
し答數を得て問に合を

(43) 一等二等三等の測量方相共一村の耕宅地を實測する事若干日ありて日給合計金二十三圓十二錢を得たり今一等測量方の九日分の給料ハ二等測量方の十一日分の給料ニ同しく二等測量方の四日分の給料ト三等測量方の五日分の給料ト同一たりふ然る時各所得幾何圓あるや

(44) 或官吏甲村を發足して乙村丙村丁村を巡回し甲村へ戻り其里程合計十四里十三町ありたりふ今甲乙兩村の距離三倍と乙丙兩村の距離二倍と同一丙丁兩村の距離五倍と丁甲兩村の距離六倍と同一丙丁兩村の距離五倍と乙丙兩村の距離四倍と同一

(45) 親子兄弟五人あり其年齡合て百二十五あり今父の年齡三倍と母の年齡四倍と同一と母の年齡二倍と三男の年齡十三倍と同一と三男の年齡四倍と二男の年齡三倍と同一と次男の年齡五倍と長男の年齡二倍と同一たりふ然る時各の年齡幾何あるや

(46) 甲乙丙丁の商人相共羅紗若干卷を買ひ之を分つと甲と乙とと二と三との如く乙と丙とと四と五との如く丙と丁とと六と七との如く其代金を拂ふと至て丁の出金二千一百圓ありたりふ然る

時々甲乙丙の出金高各幾何圓あるや

例 四

$$\begin{aligned}
 2 \times 4 \times 8 &= 16 = \text{甲} & 2 & \text{乙} & 3 & \text{丙} \\
 3 \times 4 \times 6 &= 24 = \text{乙} & 4 & & 5 & \\
 3 \times 5 \times 6 &= 30 = \text{丙} & 6 & & 7 & \\
 3 \times 5 \times 7 &= 35 = \text{丁} & & & & \\
 \frac{60 \times 35}{35} &= 60 & & & &
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 60 \times 16 &= 960 \text{圓} = \text{甲} \\
 60 \times 24 &= 1440 \text{圓} = \text{乙} \\
 60 \times 30 &= 1800 \text{圓} = \text{丙}
 \end{aligned}$$

甲乙丙丁の出金割合を算出するに
 前法より詳解するを以て爰に畧し
 丁の出金高已知ある故に此出金高
 二百圓を丁の割合三十五を以て
 除し六十圓を得是割合の一部
 分あり之を甲乙丙の割合各々
 乘し答を得る上の如し

(47) 甲乙丙丁戊の商人一艘の汽船に茶を積入東京へ
 送るふ假令を甲乙丙丁戊各の積荷高十三、二十三、
 十五、二十七、二十二、の如し今丙の運賃金六十圓ある

(48) 地位一等二等三等四等五等の田地あり其收穫米
 一等と五等と々四十と二十七との如く三等と四
 等と々十と九との如く二等と四等と々五と四と
 の如く二等と五等と々四と三との如しといふ今
 四等の田地より坪蒔九合六勺ある時々一等二
 等三等五等の田地を坪蒔各幾何あるや

(49) 甲乙兩村の宅地の地位を各三等に分つ其地價
 の比較假令を甲村の一等宅地と乙村の一等宅地
 と々八と九との如く甲村の二等宅地と乙村の二
 等宅地と々十一と十二との如く甲村の三等宅地

と乙村の三等宅地と々十四と十五との如く甲村の一等宅地と乙村の三等宅地と々十と九との如く甲村の三等宅地と乙村の二等宅地と々十四と十七との如く今甲村の一等二等三等の地位平均地價一反歩は付金百三十八圓七十五錢は當るといふ然る時を甲乙兩村の各等級一反歩は付地價各幾何あるや又甲村の二等宅地二反七畝二十六歩と乙村の三等宅地二反八畝十歩と交換せしむる幾何の損あるや

(50) 甲乙丙丁戊己の六人共ふ商社を結び其資本金を出さし各差あり甲は六月より金二千五百圓を出

し乙は一月より金三千二百圓を出し丙は四月より金千六百圓を出し丁は七月より金二千八百圓を出し戊は十月より金六千四百圓を出し己は八月より金五千二百圓を出たり其年の終りに至り丁戊己の三人は利益の配分を均す故に資本金高と月數の多寡を比較し之を算用し三人分合計金二千四百八十圓を渡したり又甲は元利共を請求し商社除名を乞ひ乙丙兩人は利益を元金に結ばんといふ然る時を甲へ渡す金高及乙丙各將來の資本金高又丁戊己各の所得幾何あるや

按分遞折比例及類例雜問

- (1) 三角形あり其三辺の和五尺一寸ふして五十二寸三、の直三角ふ比例をとりふ因て其各辺を問ふ
- (2) 甲乙の両客合衆の人力車を二十五錢よて雇ひ甲と一里二十町乙と二里十二町乗りたり今各其乗り一里數より從ひて賃金を拂ふ時々其割合如何
- (3) 四町三反二畝歩の開墾地を三戸に割渡をふ毎戸人口ふ應を第一戸と五人第二戸と七人第三戸と四人あり然る時々各戸受る所幾何町歩宛あるや
- (4) 或書生金五圓五十錢ありて數學代數幾何の三書を買ふ其各書の價を問ふは數學書と代數書と々九

分一と七分一との如く又代數書と幾何書と々二分一と三分一との如くと答ふ然る時々三書各の價幾何あるや

- (5) 或人甲乙二ツの金囊を所持せり他人其各囊中の金數を問ふは其答は甲囊の金と乙囊の金との十七と十三との如く然る共甲囊より百八十圓を出し乙囊に投する時々甲乙相反して十三と十七との割合をあるとあり然る時々甲乙二囊の金數各幾許あるや

- (6) 大小二個の直形あり其長々十一と八との如く又平々九と七との如くして各積の差々二千四百八

方寸ありとりふ然る時々大小両直形の積各幾何方寸あるや

(7) 甲乙丙の三人資本を合し貿易をあそよ甲乙金二千五百圓乙乙金三千二百五十圓丙乙金三千五百圓を出せり一年の終に至り利益金二千七百七十五圓を得たり此配分方を求む

(8) 甲乙の水夫あり甲乙金五百圓乙乙金三百圓を出し共一個の贄品を買ひ置英國へ航海の際之を英貨三百四十七元賣り因り問ふ此配分各如何但英貨一疋々二十九元十二錢あり

(9) 第一第二の兩會社相共道路修繕をあてて金三

百圓を得たり之を分つ第一會社々五組の土工を九日間出し第二會社々九組の土工を十一日間出し落成せりといふ然る時々各社収入幾何あるや

(10) 甲商某港より商品を某府へ送らんと欲し賃金二百七十五圓を以て漁船一艘を雇ひ積荷不足ある故乙商と組合荷物の多寡を比準して賃金の内百二十五圓を乙商の拂ふ事決せり然るふ乙商の荷物未着せざるを以り甲商更乙丙商の荷物を積んと約し荷の多寡を應し賃金の内百十圓を丙商出金せんといへり爰於て甲丙の荷

物を既^も積入^りるの際^{とき}乙商^の荷物^に到着^せざるを以^て併^せて之^を積^りしといふ然^る時^に甲^乙丙^各如何^に運賃^を拂^ふて可^きあるや

(77) 甲^乙丙^の商相^共茶^を商^ひ金^一千^七百^九圓^四錢^の利^を得^{たり}然^るに始^り甲^乙丙^各金^六百^圓乙^丙金^一千^二百^圓丙^乙金^一千^八百^圓の資^本を^出せりと云ふ因^り利^金の配^分方^を問

(72) 甲^乙丙^各金^九千^六百^圓乙^丙金^七千^二百^圓丙^乙金^四千^八百^圓を^出し相^共高^品を^買ひ之^を船^積し運賃^金二十一^圓六十^錢を^拂ひし此^の船^難風^に逢^ひ金^九千^圓の荷^打を^あせり然^る時^に甲^乙丙^各の損

金幾何あるや

(73) 三人^の牧^夫相^共圃^を借^て牧^場と^し甲^乙丙^各三^月間^六頭^の牝^牛を^畜ひし乙^丙二^月間^八頭^の牝^牛を^畜ひ丙^乙四^月間^十頭^の牝^牛を^畜ひ借^地料^金五^十五^圓五十^錢を^拂へりといふ然^る時^に各^出金^幾何^{ある}や

(74) 帆船^を乗^り漁^村を^發し初^日駛^る事^若干^里翌^日吹^戻され或^は孤^嶋を^投錨^し逆^風を^避く此^の嶋^漁村^を距^る僅^七里^{あり}戻^る里^數と進^みし里^數とを^比せると三^と五^{との}如^し三日^目頃^風を^比せると某^港へ^達せり此^の里^數を^初日^航せし里^程と^比せると

十二と七との如くといふ然る時々漁村より某港に
至るの海路幾何里あるや

(15) 二万八千八百二十人の兵を分つて五ヶ所は配列
せし先隊より次第は五と三との如くといふ因
て問ふ各所の兵員幾何あるや

(16) 甲乙丙三人の教員あり甲二ヶ月乙三ヶ月丙五ヶ
月の給料悉く同數ありて三人一ヶ月の給料合せ
て金六十二圓ありといふ然る時々各一ヶ月の給
料幾何あるや

(17) 甲乙二ヶ所直形の宅地あり坪數合せて三千七百
八十坪ありて甲地の間口と乙地の間口とを四と

三との如く又甲地の奥行六分一と乙地の奥行七
分一と同一といふ然る時々甲乙兩地各坪數幾何
あるや

(18) 李林橘桃各一籠宛を買ふ代金合計金三十錢あり
李一籠と林橘一籠とを其價三と七との如く林橘
五籠の價と桃四籠の價と同一といふ因て李林橘
桃各一籠の價を問

(19) 及別六町六反十五歩の田地を兄弟三人に分割を
るふ九分八と八分七と七分六との如くをといふ
然る時々各所得田地幾何町歩あるや

(20) 或人緋縮緬五尺白縮緬六尺中形絹二丈五尺花色

緞五丈太織一丈五尺を買ふ代金合計十三圓七十四錢あり今各價を比較をれを緋縮緬一尺と白緬一尺とを其價四と三との如く白縮緬二尺の價も中形縮五尺の價も同じく中形縮一丈と花色絹一丈とを其價六分一と七分一との如く花色絹九分五尺の價も太織四分三尺の價も同じといふ然る時ハ前顯の裁類各一尺の價幾何あるや
 (21) 小學費金五百九十四圓を小學區中の戸數へ分課せらふ上中下三等に分ち上戸より次第ふ六と五との如く課せんことを今上五十戸中九十六戸下二百八十八戸あり然る時上中下各一戸の出費幾

何あるや
 (22) 金三百四十五圓を盜取きたる訴あり其竊盜を捕へて偷金を糺さし答て偷金概數三分一を過つて水中へ落し四分一を朋友と與へ六分一を以て衣服を買ひ五分二を酒色に遣捨たりといふ今訴と竊盜の申立と照合して偽ありとせし時水中へ落したる金員及び三次に遣たる金員各幾何あるや
 (23) 甲乙丙各所持地の村費甲々金五圓五十五錢乙々金八圓五十一錢丙々金六圓二十九錢を出せし村費減少せしを以て三人分合計金五十五錢割戻されたり因て問ふ此割戻金を如何配分して可ある

や

(24) 甲乙丙の工夫あり一事をあるも甲乙四日乙乙五日

日丙乙六日よてある今甲乙丙三人相共よ若干日
働き金百八十五圓を得たり之を配分するは業の
遅速よ比せんといふ然る時各所得幾何あるや

(25) 三人の小吏同居し一月即三十日間の諸費を算

するも合計金十圓五十錢ありといふ今甲を官林
伐木取調し十三日間出張し在宅せむ乙を
堤防損所見分し七日間村々巡回せり然る時
各出を所の金員幾何あるや

(26) 小麦粉を各地に運漕するも當り各人相共よ一船

を雇ひ運賃金百十六圓二十五錢を拂へり今甲は
小麦粉五十石を七十里の地へ送り乙は同十石を
九十三里の地へ送り丙は同四十石を五十三里の
地へ送り丁は同五十石を二十三里の地へ送り戊
は同四十石を四十里の地へ送りといふ然る時
各人出を所の運賃幾何あるや

(27) 甲乙丙相共よ商社を結び甲乙一月より資本金六

百五十圓を出し乙は四月より同金五百圓を出し
丙は七月より同金四百五十圓を出しなり年末よ
至て利潤金三百七十五圓を得たりといふ因て之
を配分せん事を要す

(28) 甲乙二人相共ニ商業を営み六ヶ月の後、至り金二千百五十圓の利益あり之を分つふ各資本の多少應せんを始甲と乙との出せし金高を二と一との如し三月の終り至り互ニ資本金の内を収入せし故に残る所三分一と四分一との如しとゆふ然る時各所得如何

(29) 甲乙丙相共ニ金一万八千五百圓を出し一軒の家屋を買ふ各出金高相異あり甲ハ金八千圓乙ハ金六千二百圓其他ハ丙の出せしあり今其家屋を金一万六千九百七十五圓に賣り尙雜費金三百二十五圓を拂へりゆふ然る時各損金幾何あるや

(30) 建家宅地山林田圃各若干反歩を抵當とし金一万五千四百圓を貸し然るに負債者入金し抵當の中建家と宅地を除らん事を乞ふ因り其價の比較を調査せしむ假令バ宅地と建家と其價七分一と九分一との如く山と林と其價四と三個三分二との如く林の價十六倍々田の價三倍同く宅地の價二分一々山の價五分一々同く田と圃と其價二十と十三との如しゆふ然る時幾何圓入金さしむべきや

(31) 甲乙丙の農夫相共ニ官有地若干町歩を金百三十五圓ふり拂請甲乙丙各上納せし金員々六分五四

分三、三分二の比例に應せり又開墾入費として二ヶ月の後甲々金百五十圓を出し三ヶ月の後乙々金百六十圓五十錢を出し九ヶ月の後丙々金二百七圓五十錢を出せり然るに満一ヶ年ふりて此開墾地を金九百圓に轍道敷地を買上ふありとゆふ因り問ふ各所得金員幾何ありや

筆算題叢卷十終

定價金拾七錢

明治九年十月十三日出版

静岡鷹匠町二丁目

編輯者 山本正至

同南安西三番町

同 田澤昌永

同江川町

廣瀬市藏

版藏

